

学テ：英語「話す」正答率12%

中学英語

「話す」力、読解力を身につける学習方法

▶ 2023.8.13(日)

全国の中学生の英語を「話す」学力

全国学力テストの結果です。

(2023年4月実施／7月31日 文部科学省より結果の公表)

「話す」問題：

出題形式：デジタル端末で動画を見る形式

出題数：5問

出題内容：留学生と動物園を訪れた設定で、「カンガルーについての疑問があれば私に尋ねて」などと話しかけられ、英語で7～20秒で答える問題
 ポリ袋に関連した環境保護が題材の動画を視聴し、英語で意見を述べる問題
 など…

結果：1題も正答できない生徒が**6割**

全国平均正答率(国公立)が**12.4%**(前回よりも18.4%下がった)

* その他：「書く」の正答率は**24.1%**

文章の要点を捉えて自分の意見やその理由を記述する問題の正答率は**20.1%**

(2023年8月1日：「山形新聞」より、抜粋編集)

なぜ英語で自己表現ができないか

上で紹介した問題は、与えられた英文を理解し、自分の考えを英語で表現する問題です。
 では、なぜ英語の自己表現ができないのだろうか。

英文読解にしる、英会話にしる、本質は1つであると思われれます。

母国語でなく、文構造もまったく異なる英語で、ある程度高度な内容(日常会話ではない)を読み取ったり、聞き取ったり、また自分の考えを表現することができるようになるためには、いわゆる“英会話”の勉強では不可能である、ということです。

では、このような日本の中学生はどうしたら英語を自在に使えるようになるのか。

答えは1つです。

英文構造に習熟することです。

つまり、構文と英文法をきちんと習得し、練習し、習熟することです。

最初は、ゆっくりと学習を進め、ひとつひとつのルールをきちんと覚えていきます。

練習問題を数多くこなすことで、そのルールが”自動化”します。ルールを意識する前に直観で”わかる”ようになるのです。これが、英語を聞いて直ちに英語で答えることができるレベルの学力です。

こうすると、例えば

I yesterday three book bought in the shop.

が変だということは、”直観的に”わかります。「変な」感じがするのですね。

たとえば、日本語でいえば、よく外国の人が話すように、

「ワタシヲ アナタニ ガッコ イキマス。」

これを聞いたとき、日本人には”直観で”文としては”おかしい”というのがわかります。

英文法に習熟すると、このような“直観”が育つのです。だから、意味の通る英文を表現することができるようになるのです。

また、I brothers have don't. もまちがいかそういう前に文として“違和感”があります。

構文と文法の学習方法

では、構文とか英文法をどのように学習するのか。

目的は、英文の意味の理解と英語の自己表現です。

だから、英文法の学習といっても、

英検の問題のような4択問題とか、空所完成問題の練習ではありません。

英文の中に構文と文法規則を見てその意味を取り（日本語に訳すのではないことに注意）、

構文と文法規則を使って自分の言いたいことを英語で表現する

練習をします。

これは、次のような教材を使って学習できます。

Link: | 中3英語 間接疑問文 |

これは、数専ゼミの構文・英文法の学習教材で、英文を読解し、書くための訓練シートです。

「英問英答問題」にしても、“意味”をとって、その答えを日本語で考えて、それを英語のルールに従って表現すれば、まちがえず、すばやく答えを相手に伝えることができます。

（質問の意味とその答えや理由は、日本人は”日本語”でしか考えられません。）

これは、次のような教材を使って学習できます。

Link: | 中2英語 不定詞の名詞的用法 |

「英語で聞かれたとき、英語で答える力」を習得するための数専ゼミの英問英答教材です。

数専ゼミの”数学的”英語指導

数専ゼミの英語指導は、英文の意味をすばやく読み取り、自分の考えを英文で表現する力を育てることを目標とする指導です。

学習内容は、それぞれの学校の教科書の順（授業の順）にそっていきます。

たとえば、中3で、

SUNSHINE でしたら、tell{ask/want} ~ to ... → It is ~ (for 人) to ...

→ 主語+be動詞+形容詞++that ~

→ 動詞+疑問詞+主語+ 動詞 ...など

NEW HORIZON でしたら 現在完了形（経験用法）→ make+(代)名詞+形容詞

→ SVOO(that節) → 現在完了形（完了方法）

→ 現在完了形（継続方法） → 現在完了進行形

など、など…

学校の定期テスト対策としては、教科書準拠の問題集や模擬テスト集を、学校の授業で学習した部分について順次無料であげます。

これは自宅学習になります。わからないところは、教室にもってくればいつでも教えます。

これは、あくまで、”問題集”ですから、これを使って文法を学習することはできません。

逆に、覚えた文法を使えるかどうかをチェックするためのものです。

自分で学ぶ部分

単語や教科書本文のリーディング、内容理解、リスニングは、”習う”のではなく”自分で学びとる”分野の学習です。

これらの学習は、毎日、少しずつ積み上げていくことではじめて効果がでます。まとめて一気に習得できる性質のものではありません。

毎日英語に触れることで英語に”慣れる”ことが非常に大切な学習方法です。

見えないところで英語の力を育てます。

英語を”論理で”教える数学的英語指導の

数専ゼミ・山形東原教室

〒990-0034 山形市東原町二丁目10番8号

TEL: **(023)633-1086** / FAX: (023)633-1094

メールアドレス: suusen@seagreen.ocn.ne.jp